

# 金型温度調節機は必ずメンテナンスが必要です。

## 金型温度調節機洗浄方法

金型温度調節機を洗浄する場合

洗浄機の洗浄液行きのうち一本を金型温度調節機の冷却水入り口に配管して下さい。

洗浄機の洗浄液帰りのうち一本を金型温度調節機の冷却水戻りに配管して下さい。

洗浄機の洗浄液行きのもう一方の配管を金型温度調節機の媒体戻り（通常金型よりの戻り）に配管してください。

金型温度調節機の媒体行きの配管より洗浄機のステンレスタンクへ戻して下さい。

この状態で洗浄機を動作させてください。

（80度、圧力1Kg/sの設定）

次に金型温度調節機を20度以下の温度設定にて動作させて下さい。

洗浄液が金型温度調節機の配管内を循環洗浄します。

右写真はオーバーホール後約3年間使用後の温度調節機を3時間洗浄後の洗浄液の写真です。

この温度調節機は、本体内のヒータージャケット、フロー計ジャケット、バルブ等が水垢、タンカル、錆等で詰まっている状態でした。各部のつまりを取り除き回路を確保した後、洗浄した結果現在は問題なく稼働しています。

洗浄後の排出注意

洗浄液にて解けだした水垢、タンカル、錆等は、そのまま放置しますと再付着します。洗浄後清水にて、水洗浄が必要です。

定期メンテナンスの必要性

右の写真は約3年間経過した金型温度調節機ですが、ご使用になるごとに不純物が付着していきます。この不純物はヒーターの放熱を阻害し、寿命を極端に短くし、ポンプを痛め、配管を腐食させます。ここまでくると、一度の洗浄では付着物は完全には取り切れませんが、定期洗浄によってより効果が出てきます。当社は6カ月毎もしくは1年に一度は定期的な洗浄が必要と考えます。

注 金型温度調節機の洗浄については、事前に器機メーカーもしくは当社までご確認ください。

器機のヒーター、洗浄配管、バルブ等がすでに腐食していて錆び付着物等もっている場合は配管等が破損する可能性があります。



金型温度調節機洗浄中 洗浄対象M社製金型温度調節機



80度設定 3時間洗浄後の洗浄液